

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	臨床検査技師養成教育の改革による持続可能な地域医療システムの実現				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	黒川 洵子
	研究分担者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	伊藤 由彦
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	森本 達也
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	尾上 誠良
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	眞鍋 敬
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	原 雄二
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川 義之
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤 邦彦
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	石川 智久
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	近藤 啓
		所属・職名	薬学部・教授	氏名	梅本 英司
	所属・職名	薬学部・助教	氏名	児玉 昌美	
発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	黒川 洵子	

講演題目	薬学を専門とする臨床検査技師を静岡県から輩出する取組
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究は、国が掲げる「医療職におけるタスク・シフト/シェア」の一環として、令和4年度から始まった新カリキュラムによる臨床検査技師養成教育の改革に対応し、持続可能な地域医療システムの実現を目指すことを目的とする。</p> <p>本学薬学部は、いくつかの授業の単位を取得することにより、臨床検査技師国家試験受験資格が得られる科目承認校である。この度、日本の医療体制の現況および労働基準法改正から始まったタスク・シフト/シェア政策の一環として、令和4年度入学者から、臨床検査技師養成カリキュラムが大幅に変更となった。この新カリキュラムでは、科目承認校であっても、外部の医療機関にて臨地実習を受講することが必須で負担が大きく、臨床検査の重要性を認識しつつもほとんどの薬学部が撤退した。しかしながら、本学薬学部は、静岡県内において臨床検査技師を養成できる2機関のうちの一つであり、静岡市周辺では唯一であることから、今後も承認校の資格を維持し、持続可能な地域社会への貢献を目指すこととし、多大な県の協力を得て、新カリキュラムを実施している。令和6年度の成果を以下に示す。</p> <p>1) 学生向けの指定講習会の開催（旧カリキュラム対象） 県内の静岡医療科学専門学校（浜松市）にご協力いただいて、2024年9月18日に開催し、36名が受講した。</p> <p>2) 臨床検査臨地事前実習および到達度評価（新カリキュラム対象） 令和6年度は、薬学部薬科学科3年生10名が本新カリキュラムを専攻し、必要な科目の履修、医療機関での実習に向けたワクチン接種、そして学内における事前実習を受講した。その結果、10名全員がOSCE(学習達成評価試験)に合格し、静岡県内の医療機関の検査室にて、3月3日(月)より、実習を開始した。</p> <p>3) 臨床検査技師国家試験合格者および合格率の増加 令和6年度国家試験合格者は7名(合格率63.6%、新卒合格率80%)であった。過去10年の合格者は0名から4名で推移していたことを踏まえると、著しい伸びであり、昨今の取組が功を奏したといえる。</p>